

東北支所

東北支所は盛岡市に所在しており、森林・林業研究の成果を通じて東日本大震災で被災した東北地域の復興に貢献することを重要な使命としています。

現在、私たちが取り組んでいる研究の中から3つの研究をご紹介します。

第1は、津波によって壊滅的な被害を受けた海岸林の早期再生に関する研究です。東北森林管理局や仙台森林管理署等との連携協力により、土壌断面調査や理化学分析調査に基づく植栽基盤盛土の適性評価を通じて改善策の提言を目指しています。また、海岸林造成に使用されている松くい虫抵抗性クロマツコンテナ苗の活着や成長に関する調査を進めています。

第2は、持続的な木材生産を通じて地域経済に貢献するための低コスト造林技術に関する研究です。伐採跡地に現状の半分程度のコストで再造林するため、コンテナ苗の利用、低密度植栽、伐採と植付を同時に進める一貫作業、下刈りの省力の4つの技術を組み合わせた造林技術の開発を行っています。

第3は、松くい虫・ナラ枯れ等の病虫害の防除に関する研究です。中でも松くい虫（マツ材線虫病）の被害は長年の防除事業の実施にもかかわらず、じりじりと北上を続けており、各県の研究機関や行政機関と連携を図りながら効果的な防除技術の開発に向けた研究に取り組んでいます。



植栽基盤盛土に植えられたクロマツ



漂流物を受け止めている海岸林



マツ材線虫病の迅速な診断を可能にする診断キットの開発



コンテナによる育苗